

倉敷署管内少年をまもる母の会が、川崎医療福祉大(倉敷市松島)医療技術学部と協力し、歌と踊りで子どもたちの健全な精神を育てる

「非行防止体操」を考案した。母の会は「明るく健全な地域への一助になれば」と願いを込める。

(山本真慈)

# 体操で非行防止

## 倉敷 少年まもる母の会と川崎医福大考案



「非行防止体操」を体験する子どもら

## 社会ルール楽しく学んで

県内で少年犯罪の低年齢化が指摘されている中、幼児や小学生から規範意識を身に付けさせようと母の会が企画し、楽しみながら学べる体操を選んだ。歌詞も自分たちで考え、ピアノが得意な会員が作曲。趣旨に賛同した同大健康体育学科の後藤大輔助教と中川麻衣子講師が振りを付け、11月に完成した。

歌詞には「まんびぎ ぼつりよく ぜったいしない」といった言葉を盛り込み、社会ルールを守ったりあいさつしたりする大切さを呼び掛けている。軽やかな音楽で、隣の人とハイタッチやジャンプなどする動きを取り入れ、楽しく運動もできるよう工夫している。

母の会の会員や同大学生、倉敷署員らが11月下旬に中庄小(倉敷市中庄)でお披露目した。体験した2年山田桃子さん(8)は「一人のものを取ったらいけないとか、いろんな決まりを歌で覚えられた」と話していた。

倉敷署の小池昌広生活安全課長は「園児や児童の前で積極的に活用していきたい」と話し、母の会の小池好子会長(70)は「あいさつや助け合いの気持ちを大切に、地域に愛される子どもが増えてほしい」と効果に期待している。